

# 中高一貫6カ年体制で 医師の志と素養を育み 世界の医療を視野に入れた医師へ

1993年、医学部進学に特化した医科コースを設けた江戸川学園取手。2016年度には中等部に医科ジュニアコースを設け、中高一貫6カ年体制で医学部をめざすカリキュラムが確立した。同コースの特色と教育内容について、竹澤賢司校長・兼龍盛医科コース長に語ってもらった。

## 設立当初から世界に目を向けた 医科教育を意識

江戸川学園取手が医科コースを設置したのは1993年。人口増加にともなう世界的な食糧問題、貧富の格差、高齢化社会の到来など、世界規模のさまざまな問題が新聞紙面を賑わせた時期だ。



学校長 竹澤 賢司 先生

「世界の変化にともない、将来の医師不足が見込まれる時代に医科コースが誕生。茨城県の高校だから地域医療ではなく、設立当初から世界に目を向け、国際社会で活躍できる医療人の育成を意識していました。高い山に上らなければ広い景色は見えません。これからの医師には、世界と地域、それぞれに目を配る広い視野と、高い目標を掲げて上をめざす姿勢が不可欠で、そのための確かな学力と人間性を養うのが医科コースです。これは規律ある進学校として、学習指導と人間教育に力を入れてきた本校の開校以来の精神でもあります。竹澤校長は医科コース設立の経緯をこう語ってくれた。

以来26年。医学部進学者は約1500名に上り、世界各国でOB・OGが医師として活躍している。2016年度から

## 「なぜ医師になるの？」と問いかけ 医師への強い意欲を確認

は中等部に医科ジュニアコースができ、中高6カ年で医学部をめざす体制が確立した。また、「医科コース・医科ジュニアコースがあるから併設の江戸川学園取手小学校に入学する」という子どももおり、医師になるという明確な目標の下、学びに取り組み生徒も増えてきている。

「なぜ医師になるの？」と繰り返し生徒に問いかけています。医師への強い意欲を常に確認し、生徒同士が切磋琢磨することでモチベーションが高まると考えています」と医科コース長の兼龍先生は言う。

「勉強ができるから医師になるのではなく、責任感と志を持って医師になってほしいと私たちは考えています。そのため高1進学時に、医科コース志望者全員に作文を含めた選抜試験を行い、意欲ある生徒を再選抜しています。また教員は、なぜ医師になるの？と繰り返し生徒に問いかけています。医師への強い意欲を常に確認し、生徒同士が切磋琢磨することでモチベーションが高まると考えています」と医科コース長の兼龍先生は言う。

また、「人づくり」に力を入れているのも同校の特徴だ。同校は「心力」「学力」「体力」の三位一体のバランスの取れた教育を実践しており、「心の教育」の深化充実に努めている。



毎年実施されている亀田総合病院見学ツアーでの様子。多くの学びを得られる充実したプログラムが組まれている。



医科コース長 兼 龍盛 先生

## アメリカの最先端医療に触れる メディカル・ツアーも実施

実際のカリキュラムでは、医科コース、医科ジュニアコースともに、体験を重視した取り組みを多く行っている（別表参照。中でも独自強教科の『メディカルサイエンス』は、「医療問題」「科学実験」「医療統計」「科学英語」の4分野で、高1から高3までが学年の枠を超えて教え合い、学び合う協働学習が特徴。特に医療問題の分野では、再生医療の倫理面について考えを深め、議論やテーマに沿った研究を行っている。また英語の授業では、死産や過食症、拒食症などを扱ったイギリスのドキュメンタリー番組を題材に、文化の違いや価値観を考えさせることも。他にもアフタースクールで、簡単に結果のわからない実験に取り組むなど、生徒が自分なりに考えることを重視している。

「生徒が楽しく、自発的に学びに取り組むために、教員自身が教えることを楽しまなければならないと思っています。医科コースのスタッフは皆好奇心旺盛で、それぞれが得た情報を共有、意見を出し合いながらよりよい学びの実践に取り組んでいます。たとえば今年度から国語科の教員がスタップに加わったので、ゴールデンウィークには小論文を書き、それに保護者のコメント

トをもらってやるという課題を出しました。このように新しい試みも積極的にしながら、人間性豊かな医師になるための資質を育みたいと思っています」（兼龍先生）

また今年度から、アメリカ・メディカル・ツアーも始まった。世界最先端の医療が行われているアメリカの医療事情を肌で感じる7日間のツアーで、カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）内で実施。研究室や施設見学、特別医療講話、医学部学生や研究員とのパネルディスカッションなど、医療関係に特化した内容が盛り込まれている。英語でのコミュニケーションも含め、参加した生徒たちはたくさん貴重な体験ができたようだ。

さまざまな変化の時代をたくましく生きていく人間力がますます必要になります。小学校から進学してきた一貫生は、グローバル社会のビジネスリーダーたちが実践している「グッツの習慣」を学んできており、中学や高校から入学してきた生徒にもよい影響を与えてくれると思います。具体的には道徳の授業、校長講話、副校長講話、ロングホームルームなど、さまざまな機会を利用してディスカッションを行い、感想文を提出する。担任は同じ量のコメントを書いて返す。物事の本質の部分まで意見交換し合うことで相互理解が深まり、心の教育へとつながるのです。こうした本校の教育は、近年の医学部入試で重視

「生徒が楽しく、自発的に学びに取り組むために、教員自身が教えることを楽しまなければならないと思っています。医科コースのスタッフは皆好奇心旺盛で、それぞれが得た情報を共有、意見を出し合いながらよりよい学びの実践に取り組んでいます。たとえば今年度から国語科の教員がスタップに加わったので、ゴールデンウィークには小論文を書き、それに保護者のコメント



今年初めて実施されたアメリカ・メディカル・ツアーでは世界最先端の医療にも触れた

「生徒が楽しく、自発的に学びに取り組むために、教員自身が教えることを楽しまなければならないと思っています。医科コースのスタッフは皆好奇心旺盛で、それぞれが得た情報を共有、意見を出し合いながらよりよい学びの実践に取り組んでいます。たとえば今年度から国語科の教員がスタップに加わったので、ゴールデンウィークには小論文を書き、それに保護者のコメント

### 医科コース・医科ジュニアコースで実施している主な取り組み

コース	プログラム	内容
医科コース	メディカルサイエンス※	医師としての素養や世界の舞台で活躍できるリーダーの資質を身につける
	医科講話	月1回現役医師を招き、「医療の今」に触れる
	高大連携講座	筑波大学と連携し、「医療系リーダー教育モデル講義」を実施
	一日医師体験	長期休暇を利用し、医療の現場を体験
	救命講習会	救命処置を実体験する
	病院見学	OB医師協力による病院見学
	海辺の生物体験	お茶の水女子大学海産生物教育センターを利用したの実験研修
医科ジュニアコース	アフタースクール(講座)	医療に特化したさまざまな講座を用意
	アフタースクール	併設の江戸川学園小学校での実験教室開催。高校生が教える側に回る
	ボランティア活動	医療に関わるボランティアを体験
	アメリカ・メディカル・ツアー※	医療関係に特化した研修で、最先端の医療の現場を肌で感じ取る
	いのちの学習会	【いのち】や人権について考え、自他の生命を尊重する心を育む 中1主に筑波大学の現役医師による日本や世界の臓器移植の現状についての話 中2臓器移植を行った家族（臓器移植患者団体）の話 中3臓器移植を行う際のコーディネーターの方からの話
	中学生のための医学セミナー	茨城県と提携し、医師の学校訪問を実施
	医科講話	卒業生の現役医師を招き、体験談を通して医療の現場に触れる
ボランティア活動	医療に関わるボランティアを体験	
病院見学	病院・施設見学、医師による講話の他、研修医や医学生が実際に使う器具を使って注射や縫合などの体験も	

※印は本文で詳しく紹介

